



わが国の“知”を結集して
日本発の「創知産業」を
実現します

The IPSN Quarterly

東京都千代田区丸の内1-7-12 6F 77-8 階
Tel:03-5288-5401

知的財産戦略ネットワーク株式会社 ニュースレター

2025年冬(第60号)

Intellectual Property Strategy Network, Inc. (IPSN)

大阪府が主催する ライフサイエンス関連イベントに携わって

知的財産戦略ネットワーク(株)
シニアフェロー 新谷 靖

関西には、江戸時代から大阪の道修町に薬問屋が集まった「薬の町」があり、適塾に代表されるように早くから医学に尽力してきた土地柄である。今でも多くの製薬・医療機器関連の企業が集結し、薬学分野や再生医療分野においては先端的な研究開発が実臨床に応用されるなど、医療・バイオ産業が発展してきた地域である。事実、関西にはノーベル生理学・医学賞受賞者も輩出した医療分野に優れた大学や研究機関が多数存在し、先端的な研究が進められている。加えて今年EXPO2025の開催を間近に控え、関西を拠点としたライフサイエンスビジネスを世界に向けて発信するにはまたとない機会である。



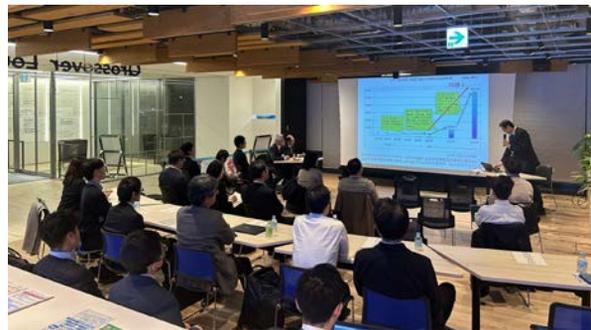
このような絶妙な時期にあって、大阪府の担う役割は大きい。同府は、地の利を生かして、これまでも様々なライフサイエンス企業や研究所の誘致を進めるとともに、彩都、健都、中之島クロス*1といった複数のバイオクラスターを府内に整備してきた。京都*2や神戸*3にも、それぞれに核となるバイオクラスターが存在することから、大阪府はこれらの組織を有機的に連携させることで、関西経済のみならず、世界に冠たるライフサイエンスの新たな開発拠点をアピールする立場にある。実は、昨年末に大阪府が主催するライフサイエンス関連イベント*4の運営を弊社が請け負う機会を得た。ここでは、同イベントを紹介しつつ、大学の事業化支援に携わる人間の一人として、今後の関西での支援活動の在り方について考えてみたい。

(次ページへ続く)

■ CONTENTS ■ ■ ■

大阪府が主催するライフサイエンス関連イベントに携わって	1
知的財産戦略ネットワーク(株)シニアフェロー 新谷 靖	
ライフサイエンス産業課の取組	3
大阪府商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課 総括主査 牟礼裕一	
第31回IPSN講演会(Webinar)開催のお知らせ	8

我々が運営を委託された大阪府のイベントは「令和6年度 研究者と事業者のマッチングイベント:再生医療・遺伝子治療」というものであり、「アカデミアと企業の連携関係を構築する機会を提供し、研究シーズの社会実装、オープンイノベーションの創出につなげる」ことを目的に、令和6年12月6日(金)15時から約4時間行われた。「再生医療・遺伝子治療」に関連した研究シーズをもつ大阪もしくは関西に所在の研究者7名による発表に対して、ライフサイエンス分野の研究開発を実施もしくは実施予定の企業から20名程度の参加者を募った対面形式のみのイベントであり、あわよくば具体的な協同契約が結ばれることも期された会合である。研究者の発表後に約1時間の交流会がもたれ、参加者と研究者間で自由に親睦を深めてもらった。成果の如何については今後の進展が期待されるが、興味を引いた発表に対しては参加者からの忌憚のない質問が浴びせられ、研究者にダイレクトに刺激が伝わったことは間違いないと確信する。今回のイベントをきっかけにして、もし新規事業が立ち上がったとしたら、大阪府も主催者側として本イベントを企画した甲斐があったというものである。



ただ、冷静に考えてみると、対面形式であったため、もし日時が合わなければ当日おられた参加者は来なかった可能性があるわけだし、たまたま本イベントを知って来たという人もいるわけであるから、この手のイベントはある意味、偶然の上に偶然が重なった事象とも受け取れる。このような偶然を少しでも必然に近づける工夫ができれば、本来の目的はより効率的に達せられるのかも知れない。ただ、その代替案が容易に見つからないことは明らかであり、例えば、米国の大学では研究者自らが起業によって積極的に「インキュベーション」の段階を埋めるということをやっている。あるいは企業に積極的に売込む努力を重ねている。片や、日本の大学はどうかというと、起業化以前の問題として、ややもすれば基礎寄りの研究に陥りがちな研究者が多く、実装化を見据えた思考が伴っていないと見受けられることもある。まずはこのような事態を少なくすべく啓蒙・啓発活動をする必要性を感じる。

本イベントでは周到な下準備が行われ、研究者も厳選されていたため、話が面白くかつ交流会も盛況のうちに終わることができた。この種のイベントがより頻繁に定期的に催されるならば、事業化率は倍増するかも知れない。ただ、ある程度の予算と労力がなければそうそう続けられるものではない。より効率的で省力化が図れる代替策の検討を切に願う。また、研究者自身も気づいていないような真に価値ある成果をどのように見つけ出すかは、我々マッチング支援に携わる者たちの大いなる挑戦である。それこそ商都・大阪がもつ「活気があって力強く、騒々しくてお節介」な文化でもってひと押しも二押しもすべき課題であろう。

*1 ライフサイエンス関連の大学、研究機関、製薬企業等が大阪北部を中心に多数集積していることから、大阪府では産学官の強みを活かして、創薬等の研究開発の拠点である「彩都(茨木市、箕面市)」、「健康・医療」をコンセプトとした「健都(吹田市、摂津市)」、未来医療の拠点となる「中之島(大阪市北区)」の3つの拠点形成を推進し、健康・医療関連産業の世界的なクラスター形成をめざしている。<https://osaka-bio.jp/>

*2 京都市ライフイノベーション創出支援センターを拠点として、ライフサイエンス関連産業の振興にむけて、次世代医療分野および健康・福祉・介護分野を中心に、医療機器・医薬品等の開発支援、新たな事業創出への支援など、産学公連携による活動を展開している。<https://www.astem.or.jp/klisc>

*3 先端医療技術の国際的な研究開発拠点として、神戸市のポートアイランドに研究機関・病院・医療関連企業などが集積する日本最大級のバイオメディカルクラスターである神戸医療産業都市が存在する。<https://www.fbri-kobe.org/kbic/about/>

*4 令和6年度 研究者と事業者のマッチングイベント(再生医療・遺伝子治療):
<https://www.ipns.co.jp/events/event-osaka01/>

ライフサイエンス産業課の取組

大阪府商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課
総括主査 牟礼裕一

1. 大阪バイオ・ヘッドクォーター

大阪市内中心部にある道修町は、江戸時代に薬種問屋が軒を連ねる日本全国の医薬品流通の中心地であったことから、「くすりのまち」として栄え、漢方薬の中心市場であるとともに、西洋医学も日本に早くから導入したことで、多くの商人や医学学校を惹きつけるなど、今日でも有名な製薬会社、大学が道修町を中心に大阪に集積している。

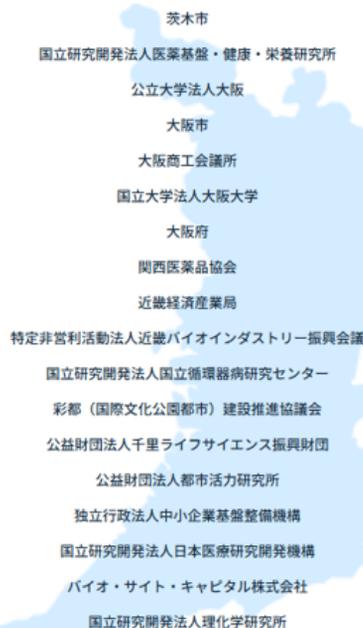
大阪にはこうした、ライフサイエンス企業、研究機関が集積していることに加え、昭和50年代に当時の大阪大学総長である山村雄一氏が「大阪北部の北摂地区を生命科学(ライフサイエンス)のメッカにしたい」という構想を発表された。これを契機に大阪のライフサイエンス産業を推進する動きが高まり、大阪府では、2008年に府内産学官のトップで構成する「大阪バイオ戦略推進会議」と、大阪府ライフサイエンス産業課が事務局を務める府内産学官が一丸となった体制「大阪バイオ・ヘッドクォーター」を設置して、ライフサイエンス企業・研究機関が集積する強みを活かした、健康・医療関連産業のさらなる発展を図っている。

また、大阪バイオ戦略推進会議において、山村総長(当時)の構想を具現化する北大阪を中心とした世界トップクラスのクラスター形成を目標に掲げ、オール大阪の産学官による一体的な事業推進を図るため、構成機関が主体的に取り組む共通の戦略として、「大阪バイオ戦略」を策定した。以来、大阪バイオ・ヘッドクォーターでは、「大阪バイオ戦略」に基づき、府内ライフサイエンス産業の振興にかかる環境整備を進めてきた。

その後の本戦略は「大阪の成長戦略」へと引き継がれ、現在は、2020年に策定した「大阪の再生・成長に向けた新戦略」において、今後の成長を担う産業としてライフサイエン



大阪バイオ・ヘッドクォーター構成機関
(令和7年1月末時点)



(次ページへ続く)

分野を位置づけ、引き続き、健康・医療関連産業のリーディング産業化に向けて取り組んでいる。

本稿では、大阪バイオ・ヘッドクォーターの事務局を務める大阪府ライフサイエンス産業課がライフサイエンス分野の産業振興に向けて取り組んでいる施策・事業のうちから、ライフサイエンス拠点の形成、アカデミアの研究シーズ事業化支援、海外展開支援に関して紹介する。

2. ライフサイエンス拠点の形成

大阪府では、それぞれ特長を持った3か所のライフサイエンス分野の拠点形成を推進している。1か所目は茨木市と箕面市にまたがる北大阪の丘陵地に位置する創薬の研究開発拠点「彩都／彩都ライフサイエンスパーク」、2か所目は吹田市と摂津市にまたがり交通アクセスに優れた健康・医療のイノベーション拠点「北大阪健康医療都市(健都)」、3か所目は大阪市内の都市部に位置する中之島に再生医療をはじめ未来医療の産業化を推進する未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross(中之島クロス)」の3つの拠点である。この拠点の概要及び取組については以下のとおりである。

○彩都／彩都ライフサイエンスパーク

2004年にまちびらきした彩都では、大阪大学医学部や、その附属病院等のすぐそばであるという立地の強みを活かし「創薬」をコンセプトとした拠点形成を進めてきた。彩都の西部地区にある彩都ライフサイエンスパークには、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所や医薬品関連企業の研究開発拠点が集積するとともに、バイオテックスタートアップが入居する3棟のインキュベーション施設(彩都バイオインキュベータ、彩都バイオヒルズセンター、彩都バイオイノベーションセンター)がある。



大阪府では、インキュベーション施設へのベンチャー・スタートアップの支援・集積を図るため、入居企業が研究開発を行う際に必要となる設備導入経費を補助しているほか、彩都ライフサイエンスパークに立地する企業等との交流促進などの取組を行っている。

これらの取組により、入居企業の中からこれまでに5社が株式上場し、4社がM&Aによる事業承継がされるなど、産業化において着実に成果が生まれている。

○北大阪健康医療都市(健都)

健都は、国立循環器病研究センター(国循)の移転が決定したことを契機にまちづくりが始まり、2023年3月には国立健康・栄養研究所(健栄研)の移転、ニプロ株式会社、



エア・ウォーター株式会社の開業など、健康・医療関連の研究機関、企業の集積も進んでいる。健都は「健康・医療」をコンセプトとしており、アカデミアや企業だけでなく地域住民も参画し、産学官民によるイノベーション創出を進めていることが大きな特長である。

大阪府では、国循、健栄研という2つの国立研究機関が立地する優位性と、他の拠点に類を見ない住民との近接した産業拠点、という利点を活かし、健都発の新技术・サービスが継続的に創出される仕組みづくりに取り組むことで、「国際級の複合医療産業拠点」の実現をめざしている。

その一環として、大阪・関西万博が開催される2025年に、万博出展企業等が有する革新的な技術・サービスの展示、体験会等を行い、社会実装・ビジネス化を加速させる「健都万博」を実施する。より住民に近い健都において、実証事業や産学民交流イベント等を実施することで得られるネットワークやノウハウが地元に定着し、健都発の製品・サービスの社会実装の仕組みづくりをめざす。健都の研究機関・企業との連携や、住民参加型の実証実験に関心のある方には是非ご注目いただきたい。

○未来医療国際拠点Nakanoshima Cross (中之島クロス)

中之島クロスは、大阪大学発祥の地でもあり、大阪市の中心に位置し、ビジネス・文化・宿泊等の機能が集積する中之島に2024年6月29日に開業した。2031年に予定されている「なにわ筋線」の開業時には、拠点と近接する「(仮称)中之島駅」が開設され、関西国際空港や新大阪へのアクセスが飛躍的に向上する予定である。

Nakanoshima Cross

中之島クロスのコンセプトは、再生医療等をはじめとした「未来医療」の産業化、国内外の患者への「未来医療」の提供による国際貢献の推進である。中之島クロスには、病院やクリニックが入居する「未来医療MEDセンター」、研究開発を中心に進める「未来医療R&Dセンター」、オープンスペースを備え交流と賑わいを生み出す「中之島国際フォーラム」から構成されており、再生医療に関係する基礎から応用までのステークホルダーが一つ屋根の下に集まる、他に類を見ない未来医療の産業化拠点である。また、MEDセンターの6階には、京都大学のiPS財団が入居し、また、R&Dセンターの3階から5階にかけては三井不動産/LINK-Jがスタートアップやベンチャー企業が利用できるウェットラボを設けている。さらに2階の「『交流・共創・発信』の場」(Qrossover Lounge 夢)は、集積する医療・研究機関、アカデミア、企業・スタートアップ等と来阪した国内外のライフサイエンス関連分野の人材等が交流・共創することで、イノベーション創出を推進している。

大阪府としても、「交流・共創・発信」の機能の強化として、再生医療の産業化を後押しするためのリーディングプロジェクトの創出を支援する「大阪府未来の医療Qrossover(クロスオーバー)プロジェクト補助金」や、再生医療の実用化・産業化において重要なプレイヤーであるスタートアップが新たな事業展開に乗り出すため

(次ページへ続く)

の課題を解決し、成長を遂げられるよう支援する「Nakanoshima Qross(中之島クロス)スタートアップ成長支援事業補助金」といった支援事業を展開している。引き続き、未来医療の産業化に向けたオープンイノベーションを促進するとともに、今後は、グローバルに活躍する有望なスタートアップを次々と輩出する「未来医療のスタートアップエコシステム」に向けた取組みを図っていく。

3. アカデミアの研究シーズ事業化支援

府内にはライフサイエンス分野の高い基礎研究実績を有する大学・研究機関等や、インキュベーション施設は充実している。一方、これらの機関において様々なシーズを持つ研究者が必ずしも事業化意欲を有しているとは限らず、起業をはじめとする研究成果の事業化に至らないケースがあるといった課題もある。

そこで、大阪府では研究成果の事業化に向けた取組の一環として、アカデミアや研究機関の研究者を対象にライフサイエンスアントレプレナーシップ人材育成講座を2023年度より実施している。この事業は、ライフサイエンス分野のスタートアップとして起業し市場をけん引する存在となり得る研究者が、将来の選択肢として研究成果の事業化をめざすという意欲を醸成することを目的に実施している。具体的には、先輩起業家による講演・意見交換、研究シーズに関連するニーズ調査、実践的なワークショップ、個別のメンタリング実施による受講者のフォローアップ等、全7回の講座及び発表会を実施するものである。起業に対する理解促進や、起業に向けたリアルな行動を体験し、研究シーズの事業化に必要となる起業家的行動能力(アントレプレナーシップ)を習得してもらうことを受講生のゴールとしている。

また、起業意欲の醸成のほかに、企業とのパートナーシップや共同研究を促進するため、研究者と事業者のマッチングイベント「関西のユニークな研究シーズ大集合！」も実施している。本事業では特定のテーマに関連する研究を行っている複数の研究者が、自らの研究シーズを事業者に向けて発表し、企業のアライアンス担当者と意見交換の実施を通じて、パートナーシップや共同研究に繋げていくことを狙っている。これまで「再生医療・遺伝子治療」「ペプチド創薬」をテーマに実施しており、2025年度以降も新たなモダリティに関するテーマを設定する予定である。大阪・関西の高度且つ最新の研究内容を知れる貴重な機会なので、多くの事業者の方にご参加いただければと思っている。

大阪府 未来医療
研究成果を社会へ
ライフサイエンス アントレプレナーシップ人材育成講座

- 研究シーズの社会課題を自覚する授業！
- 優秀な企業との顔合わせも期待している企業家！
- 起業の面白さまで学ぶ！

先輩起業家による講演
関西向け企業家講演会
専門家による個別メンタリング
実践的なワークショップ形式

8/29(土) 2024 起業家講演
第1回キックオフイベント

11/20(土) 2024 先輩起業家の施設見学
フェルトワーク

開催地：Nakanoshima Qross (中之島クロス) 2階
参加費：無料

申込先：Nakanoshima Qross (中之島クロス) 事務局
申し込み先：こちら！

大阪府 未来医療
関西のユニークな研究シーズ大集合！
～再生医療・遺伝子治療編～

参加費無料

【令和6年12月6日(金曜日) 15:00～18:30】

場 所：Nakanoshima Qross 2階(CROSSOVER LOUNGE)
(アクセスはこちら)

対 象：ライフサイエンス分野の研究開発を行う又は今後ライフサイエンス分野の研究開発を行う予定のある企業の方

募集人数：20人(先着順) ※申し込み締切は2025年11月10日(火曜日)です。
新規も招待して注目されている「再生医療・遺伝子治療」に関する研究シーズを、大阪・関西のアカデミアの研究者が発表します！新たな知見を広げる、共同研究等のきっかけぜひご参加ください！

参加申込はこちら → <https://www.ipsn.co.jp/events/event-osaka01/>

これら二つの取組により研究成果の事業化が進み、大阪発のイノベーションが創出されることを期待している。

4. 府内企業の海外展開支援

大阪府では、スタートアップを含む、大阪府内の中小企業の海外展開をサポートすることを目的とした、2つのマッチングイベントを開催している。

1つ目として、毎年9～10月に開催している EU圏の企業・研究機関とのマッチング「日欧バイオテック&ファーマ パートナリングカンファレンス」を日欧産業協力センターとの共催により実施している。

2024年度は、海外88団体、国内71団体がオンサイト及びオンラインにより参加し、302件の面談が行われた。個別面談以外にも、企業からのピッチセッション、ポスター発表、海外団体による地域紹介ウェビナーを実施した。海外の参加企業等からは、基本言語が英語である点や、規模は小さいがコミュニケーションがとりやすい点など高い評価をいただいております、2025年度も実施予定である。

もう1つは、イギリス、カナダをはじめとする非EU圏の企業・研究機関とのマッチングイベント「Osaka Biotech & Pharma Networking Event」である。

このイベントは例年11～12月にオンラインで実施しており、2024年度はイギリス、カナダから5つの地方政府・州政府バックアップのもと、海外から75団体が参加した。2025年度は大阪・関西万博の開催に合わせ6月頃に、初めてオンサイトで開催する予定である。

両イベントとも、詳細が固まり次第、大阪バイオ・ヘッドクォーターのホームページで公開する予定であり、海外企業・研究機関との出会い、グローバル展開のきっかけとして、是非参加をお待ちしている。

5. 最後に

大阪府では今回紹介した事業以外にも、ライフサイエンス産業の振興に資する多くの事業を実施している。また、大阪だけでなく、兵庫、京都など近隣地域と連携し、関西のライフサイエンス分野の高いポテンシャルを世界にアピールする取

(次ページへ続く)



組も進めている。なお、大阪のライフサイエンス産業に関する様々な事業や取組については、大阪バイオ・ヘッドクォーターのHP (<https://osaka-bio.jp/>) に掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。

【著者略歴】 牟礼裕一(むれ ゆういち)

【略歴】

昭和62年生まれ。

平成25年4月 大阪府入庁 商工労働部中小企業支援室ものづくり支援課配属

平成27年4月 消費生活センター配属

平成30年4月 住宅まちづくり部(現「都市整備部住宅建築局」)住宅まちづくり総務課配属

令和4年4月 商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課配属 現在に至る

第31回IPSN講演会のお知らせ

●IPSN Webinar開催テーマ

性差の壁を越えて(仮)

＜第31回IPSN講演会＞は「性差の壁を越えて(仮)」をテーマに講演会の準備を進めております。詳細は後日ご案内させていただきます。皆様のWebinarへのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

今年は雪深い地域の多い冬でした。そんな冬でしたので、今年の夏こそは涼しい夏であって欲しいと切に願っております。ここ数日全国的に暖くなり、近隣ではそろそろ梅が見頃を迎えます。あと2～3週間で桜が咲き始め、春本番になるかと思えます。皆様が大切な方々と心穏やかに春を迎えられ、桜を愛でられます様お祈りしております。(横山雅与)

知的財産戦略ネットワーク株式会社

本書の内容を無断で複写・転載することを禁じます。
2025年2月発行 The IPSN Quarterly (第60号・冬)
〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12サピアタワー8階
電話: 03-5288-5401 ファクシミリ: 03-3215-1103
URL: <http://www.ipsn.co.jp/>
Email: info@ipsn.co.jp